

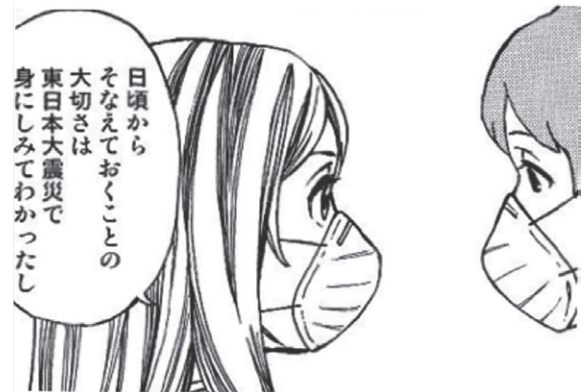
阪神淡路大震災、東日本大震災 そして熊本地震

3つの震災での アスベスト問題

4月14, 16日2回の震度7の熊本地震では多くの人的な被害と共に9万棟を超える建物が被害を受けました。建物にはアスベストを含む建材が使用されていることが多く、地震による直接の被害またその後の解体工事によってアスベストが飛散する危険性が増すことが阪神淡路大震災と東日本大震災の経験からわかっています。

アスベストは発がん物質であり、その粉じんを吸い込むことによって中皮腫、肺がん等の重い病気を発症するおそれがあります。1960年代の高度経済成長期に建材などに大量に使用され始め、関連の製造工場や建設現場労働者だけでなく、工場 周辺の住民にまで被害が及んでいます。2012年に全面使用禁止となりましたが、すでに使用されていた大量のアスベスト含有建材が私たちの身の回りに残されています。震災後の適切なアスベスト対策が行われないとアスベストを飛散させ、作業員だけでなく、周辺住民なども吸い込んでしまう危険性があるのです。

私たちは阪神淡路大震災と東日本大震災でのアスベスト対策の経験から、今回の熊本地震でのアスベスト対策を考える緊急シンポジウムを企画しました。2つの震災の経験からアスベスト対策として今何が必要なのか？ 国や自治体の役割、建物所有者や利用者、ボランティアの皆さんが注意すべきことは何か？ これから始まる解体工事はどうしたらアスベストの飛散を防げるのか？ 等々について考えます。熊本の皆さんのご参加をお願いします。



マンガで読むアスベスト問題『石の肺』第7章より引用

期日 6月21日(火)

開場 18:00 開始 18:30 終了 20:30

会場 熊本県民交流館(パレア)
会議室1

熊本市中央区手取本町8番9号 テトリアくまもとビル
熊本駅から市電で17分、「水道町」又は「通町筋」電停
(会場には駐車場はありません。)

○会場電話 096-355-4300

参加費 無料

<アスベスト何でも電話相談>

電話番号 **090-2736-9369**

<第1部 報告とシンポジウム>

- 1 アスベストについて
永倉 冬史(中皮腫・じん肺・アスベストセンター)
- 2 阪神大震災、熊本地震に被災して
中地 重晴(熊本学園大学)
- 3 東日本大震災でのアスベスト対策
外山 尚紀(東京労働安全衛生センター)
- 4 2つの震災に学ぶアスベスト対策
南 慎二郎(立命館大学)
- 5 討論

<第2部 体験ワークショップ>

- 1 防じんマスクの使い方
- 2 アスベスト含有建材の見分け方

主催

特定非営利活動法人 **東京労働安全衛生センター**

東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル 5F TEL 03-3683-9765 FAX 03-3683-9766 <http://www.toshc.org/> center@toshc.org